

シ ラ バ ス

愛媛県立宇和島南中等教育学校(前期課程)

教科	理科	学年	1	年	時間数	140	時間
----	----	----	---	---	-----	-----	----

教科書名	新しい科学1年 2年	出版社名	東京書籍
------	------------	------	------

学期	月	指導計画		評価の観点			授業の概要・学習の到達目標・評価の観点等
		単元	内容	知	思	主	
一 学 期	4	(1年)単元1 いろいろな生物とその共通点	1 身近な生物の観察			◎	授 業 の 概 要 理科は、物質やエネルギー、生物や自然に関する分野を単元ごとに入れ替えながら学習します。 1年生では、「いろいろな生物とその共通点」、「生物のからだのつくりとはたらき」、「身のまわりの物質」、「身のまわりの現象」、「大地の変化」について学習します。 実験・観察も行いますが、計算問題などの難しい問題の演習も行い、基礎・基本の習得や応用力を身に付けます。
		1章 生物の観察と分類のしかた	2 生物の特徴と分類		○	○	
		2章 植物の分類	1 身近な植物の分類 2 果実をつくる花のつくり		○	○	
			3 裸子植物と被子植物		○	○	
			4 花をさかせず種子をつくらぬ植物		○	○	
	5	中間考査(5/18～5/19)	5 さまざまな植物の分類		◎	◎	
	6	3章 動物の分類	1 身近な動物の分類 2 セキツイ動物		○	◎	
二 学 期	6	(1年)単元2 身のまわりの物質	1 物の調べ方 2 金属と非金属		○	○	学 習 の 到 達 目 標 ・自然の事物・現象についての理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けるようにする。 ・観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。 ・自然の事物・現象に進んで関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。
		1章 身のまわりの物質とその性質	3 さまざまな金属の見分け方		◎	○	
	7	期末考査3年(6/28～7/2)、1・2年(6/29～7/2)			◎	◎	
		2章 気体の性質	1 身のまわりの気体の性質 2 気体の性質と集め方		○	○	
		3章 水溶液の性質	1 物質が水にとけるようす		○	○	
	8	夏季休業日(7/21～8/24)	2 溶解度と再結晶		○	◎	
	9	4章 物質の姿と状態変化	1 物質の状態変化 2 物質の状態変化と体積・質量の変化		○	○	評 価 の 観 点 知識・技能 自然の事物・現象についての基本的な概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身に付けている。 思考・判断・表現 自然の事物・現象から問題を見だし、見通しをもって観察、実験などを行い、得られた結果を分析して解釈し、表現するなど、科学的に探究しようとしている。 主体的に学習に取り組む態度 自然の事物・現象に進んで関わり、見通しをもって振り返りなど、科学的に探究しようとしている。
		(1年)単元3 身のまわりの現象	3 状態変化が起こるときの温度と蒸留		○	○	
		1章 光の世界	1 物の見え方 2 光の反射		○	○	
			3 光の屈折		○	○	
		4 レンズのはたらき		○	◎		
2章 音の世界		1 音の伝わり方 2 音の性質		○	○		
10	中間考査(10/5～10/6)			◎	◎		
11	3章 力の世界	1 日常生活のなかの力			◎		
		2 力のはかり方		○	○		
		3 力の表し方 4 力のつり合い		○	○		
	(1年)単元4 大地の変化	1 火山の姿からわかること 2 火山がうみ出す物		○	○		
	1章 火をふく大地	3 火山の活動と火成岩 4 火山とともにくらす		○	○		
12	2章 動き続ける大地	1 地震のゆれの伝わり方		○	○		
		2 地震が起こるところ 3 地震に備えるために		○	○		
	期末考査3年(11/29～12/3)、1・2年(11/30～12/3)			◎	◎		
三 学 期	1	3章 地層から読みとる大地の変化	1 地層のつくりとはたらき 2 堆積岩		○	○	評 価 方 法 学習の状況は、「知識・技能」、「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組む態度」の3つの観点で評価します。具体的には、おもに「出席」、「授業態度・取り組み方」、「定期考査」、「小テスト等」、「提出物(レポートやノート)」により評価します。また、学年の成績は、上記の観点から評価した各学期の成績の平均とし、5段階法でも評定します。
			3 地層や化石からわかること		○	◎	
			4 大地の変動 5 身近な大地の歴史		○	○	
2	2	(2年)単元2 生物のからだのつくりとはたらき	1 水中の小さな生物			◎	備 考
		1章 生物と細胞	2 植物の細胞		○	○	
			3 動物の細胞		○	○	
	2章 植物のからだのつくりとはたらき	1 葉と光合成		○	○		
		2 光合成に必要なもの		○	○		
		3 植物と呼吸		○	○		
3	3	学年末考査3年(2/21～2/28)			◎	◎	
		学年末考査1・2年(2/22～2/28)			◎	◎	
		4 植物と水		○	○		
		5 水の通り道		○	○		

シ ラ バ ス

愛媛県立宇和島南中等教育学校(前期課程)

教科	理科	学年	2	年	時間数	140	時間
----	----	----	---	---	-----	-----	----

教科書名	新しい科学2年 3年	出版社名	東京書籍
------	------------	------	------

学期	月	指導計画		評価の観点			授業の概要・学習の到達目標・評価の観点等
		単元	内容	知	思	主	
一 学 期	4	(2年)単元2 生物のからだのつくりとはたらき 1章 生物と細胞 2章 植物のからだのつくりとはたらき	1 水中の小さな生物 2 植物の細胞 3 動物の細胞 4 生物のからだと細胞 1 葉と光合成 2 光合成に必要なもの 3 植物と呼吸 4 植物と水 5 水の通り道	○	◎	◎	<p style="text-align: center;">授 業 の 概 要</p> 理科は、物質やエネルギーに関する物理、化学分野と、生物や自然に関する生物、地学分野を単元ごとに入れ替えながら学習します。 2年生では、物理、化学分野は、「電流の世界」、「化学変化と原子・分子」について、生物、地学分野は、「生物のからだのつくりとはたらき」、「天気とその変化」、「生命の連続性」について学習します。 実験・観察も行いますが、計算問題などの難しい問題の演習も行い、基礎・基本の習得や応用力を身に付けます。
		中間考査(5/18～5/19)		◎	◎	◎	
	5	3章 動物のからだのつくりとはたらき	1 消化のしくみ 2 呼吸のしくみ 3 呼吸のはたらき 4 血液のはたらき 5 排出のしくみ	◎	○	○	
		4章 刺激と反応	1 刺激と反応 2 神経のはたらき 3 骨と筋肉のはたらき	○	○	○	
	6	期末考査3年(6/28～7/2)、1・2年(6/29～7/2)		◎	◎	◎	
		(2年)単元1 化学変化と原子・分子 1章 物質の成り立ち 2章 物質どうしの化学変化	1 ホットケーキの秘密 2 水の分解 3 物質をつくっているもの 4 分子と化学式 5 単体と化合物・物質の分類 1 異なる物質の結びつき	◎	○	○	
	夏季	夏季休業日(7/21～8/24)					
二 学 期	8	3章 酸素がかかわる化学変化	2 化学変化を化学式で表す 1 物が燃える変化 2 酸化物から酸素をとる化学変化	◎	○	○	<p style="text-align: center;">評 価 の 観 点</p> 知識・技能 自然の事物・現象についての基本的な概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身に付けている。 思考・判断・表現 自然の事物・現象から問題を見だし、見通しをもって観察、実験などを行い、得られた結果を分析して解釈し、表現するなど、科学的に探究しようとしている。 主体的に学習に取り組む態度 自然の事物・現象に進んで関わり、見通しをもって振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。
		4章 化学変化と物質の質量	1 化学変化と質量の変化 2 物質と物質が結びつくときの物質の割合	◎	◎	◎	
	9	5章 化学変化とその利用	1 化学変化と熱	○	◎	○	
		中間考査(10/5～10/6)		◎	◎	◎	
	10	(2年)単元4 電気の世界 1章 静電気と電流 2章 電流の性質	1 静電気と放電 2 電流の正体 3 放射線の性質と利用 1 電流の利用 2 回路に流れる電流 3 回路に加わる電圧 4 電圧と電流と抵抗 5 電気エネルギー	○	○	○	
		3章 電流と磁界	1 電流がつくる磁界	○	○	○	
	11	期末考査3年(11/29～12/3)、1・2年(11/30～12/3)		◎	◎	◎	
		3章 電流と磁界	2 モーターのしくみ 3 発電機のしくみ 4 直流と交流	○	○	○	
	12	(2年)単元3 天気とその変化	1 気象の観測	○	○	○	
		冬季休業日(12/21～1/6)					
三 学 期	1	1章 気象の観測	2 大気圧と圧力 3 気圧と風 4 水蒸気の変化と湿度	○	○	○	<p style="text-align: center;">評 価 方 法</p> 学習の状況は、「知識・技能」、「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組む態度」の3つの観点で評価します。具体的には、おもに「出席」、「授業態度・取り組み方」、「定期考査」、「小テスト等」、「提出物(レポートやノート)」により評価します。また、学年の成績は、上記の観点から評価した各学期の成績の平均とし、5段階法でも評定します。
		2章 雲のでき方と前線	1 雲のでき方 2 気団と前線	○	○	○	
	2	3章 大気の動きと日本の天気	1 大気の動きと天気の変化 2 日本の天気と季節風 3 日本の天気の特徴 4 天気の変化の予測 5 気象現象がもたらすめぐみと災害	○	○	○	
		(3年)単元2 生命の連続性 1章 生物の成長と生殖	1 生物の成長と細胞の変化 2 無性生殖 3 有性生殖 4 染色体の受けつがれ方	○	○	○	
	3	学年末考査3年(2/21～2/28) 学年末考査1・2年(2/22～2/28)		◎	◎	◎	
3	2章 遺伝の規則性と遺伝子	1 遺伝の規則性 2 遺伝子の本体 3 遺伝子やDNAに関する研究成果の活用	○	○	○	備 考	

シ ラ バ ス

愛媛県立宇和島南中等教育学校(前期課程)

教科	理科	学年	3	年	時間数	140	時間
----	----	----	---	---	-----	-----	----

教科書名	新しい科学3年 新編化学基礎	出版社名	東京書籍
------	----------------	------	------

学期	月	指導計画		評価の観点			授業の概要・学習の到達目標・評価の観点等
		単元	内容	知	思	主	
一 学 期	4	単元2 生命の連続性	1 生物の成長と細胞の変化	○			授業の概要 理科は、物質やエネルギー、生物や自然に関する内容を単元ごとに入れ替えながら学習し、中学理科の内容が終了したあとで、高校の理科の内容を学習します。 3年生では、中学理科の内容として、「生命の連続性」、「運動とエネルギー」、「地球と宇宙」、「化学変化とイオン」、「地球と私たちの未来のために」について学習します。 高校の理科の内容は、「化学基礎」という科目について、学習します。 実験・観察も行いますが、計算問題などの難しい問題の演習も行い、基礎・基本の習得や応用力を身に付けます。
		1章 生物の成長と生殖	2 無性生殖 3 有性生殖 4 染色体の受けつがれ方	○			
		2章 遺伝の規則性と遺伝子	1 遺伝の規則性		○		
			2 遺伝子の本体 3 遺伝子やDNAに関する研究成果の活用			○	
		3章 生物の多様性と進化	1 生物の歴史 2 水中から陸上へ	○		○	
			3 さまざまな進化の証拠 4 進化と多様性	○		○	
	5	中間考査(5/18～5/19)		◎	◎		
	6	単元3 運動とエネルギー	1 物体の運動の記録 2 物体の運動の速さの変化	◎			
		1章 物体の運動	3 だんだん速くなる運動 4 だんだんおそくなる運動	○			
		2章 力のはたらき方	1 力の合成と分解 2 慣性の法則	○	○		
			3 作用・反作用の法則 4 水中ではたらく力		○	○	
		3章 エネルギーと仕事	1 さまざまなエネルギー 2 力学的エネルギー		○		
		期末考査3年(6/28～7/2)、1・2年(6/29～7/2)		◎	◎		
7	単元4 地球と宇宙	3 仕事と力学的エネルギー		○		学習の到達目標 ・自然の事物・現象についての理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けるようにする。 ・観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。 ・自然の事物・現象に進んで関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。	
		4 仕事の原理と仕事率 5 エネルギーの変換と保存	○	○			
		1 太陽	○		○		
	夏季休業日(7/21～8/24)						
	8	1章 地球の運動と天体の動き	1 太陽の1日の動き 2 地球の自転と方位、時刻 3 星の1日の動き	○	○		
			4 天体の1年の動き 5 地軸の傾きと季節の変化	○			○
9	2章 月と金星の見え方	1 月の満ち欠け 2 日食と月食	○		○		
	3章 宇宙の広がり	3 金星の見え方	○	○			
二 学 期	単元5 地球と私たちの未来のために 1章 自然のなかの生物	1 生態系 2 生態系における生物の関係 3 炭素の循環と地球温暖化	○	○		評価の観点 知識・技能 自然の事物・現象についての基本的な概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身に付けている。	
	中間考査(10/5～10/6)		◎	◎			
	2章 自然環境の調査と保全	1 身近な自然環境の調査 2 人間による活動と自然環境 3 自然環境の開発と保全			○		
	3章 科学技術と人間 地域とつながる	1 さまざまな物質とその利用 2 エネルギー資源の利用			○		
	終章 持続可能な社会をつくるために	3 科学技術の発展 自然災害と地域のかかわりを学ぶ			○		
	単元1 化学変化とイオン	1 地球環境と私たちの社会	○	○	○		
11	1章 水溶液とイオン	1 水溶液と電流	○			思考・判断・表現 自然の事物・現象から問題を見だし、見通しをもって観察、実験などを行い、得られた結果を分析して解釈し、表現するなど、科学的に探究しようとしている。	
		2 電解質の水溶液の中で起こる変化		○			
12		3 イオンと原子のなり立ち	○			主体的に学習に取り組む態度 自然の事物・現象に進んで関わり、見通しをもって振り返り返したりするなど、科学的に探究しようとしている。	
	期末考査3年(11/29～12/3)、1・2年(11/30～12/3)		◎	◎			
	2章 酸、アルカリとイオン	1 酸性やアルカリ性の水溶液の性質	○				
		2 酸性、アルカリ性の正体	○		○		
		3 酸とアルカリを混ぜ合わせたときの变化			○		
	冬季休業日(12/21～1/6)						
三 学 期	3章 化学変化と電池	1 電解質の水溶液の中の金属板と電流 2 金属のイオンへのなりやすさのちがいと電池のしくみ	○			評価方法 学習の状況は、「知識・技能」、「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組む態度」の3つの観点で評価します。具体的には、おもに「出席」、「授業態度・取り組み方」、「定期考査」、「小テスト等」、「提出物(レポートやノート)」により評価します。また、学年の成績は、上記の観点から評価した各学期の成績の平均とし、5段階法でも評定します。	
	化学基礎 序編 化学と人間生活	3 ダニエル電池 4 身のまわりの電池	○		○		
		・金属製錬の歴史・鉄・銅・アルミニウム	○		○		
		・セラミックス・プラスチック・繊維	○		○		
	1章 物質の探究 1 物質の性質と分離	・食料の確保・食品の保存・洗剤・純物質と混合物・分離操作・物質の三態			○		
	2 物質の成分	・粒子の熱運動・絶対温度	○				
2	2章 物質の構成粒子 1 原子の構造	・元素と元素記号・単体と化合物・元素の確認	○			備考	
	学年末考査3年(2/21～2/28) 学年末考査1・2年(2/22～2/28)		◎	◎			
3	2 電子配置と周期表	・電子式・配位結合・極性	○	○			
		・水素結合・分子模型	○	○			

シ ラ バ ス

愛媛県立宇和島南中等教育学校(後期課程)

教科	理科	科目	化学基礎	学年	4 年	類型	共通	単位数	2	単位
----	----	----	------	----	-----	----	----	-----	---	----

教科書名	改訂 新編 化学基礎	出版社名	東京書籍
------	------------	------	------

学期	月	指導計画		評価の観点				授業の概要・学習の到達目標・評価の観点等	
		単元	内容	関	思	技	知		
一 学 期	4	1編 物質の成り立ち 3章 物質と化学結合	1 イオンとイオン結合 2 金属と金属結合 3 分子と共有結合 ・分子 ・電子式 ・構造式 ・有機化合物 ・高分子化合物 ・電気陰性度 ・極性 ・分子結晶 ・共有結合の結晶	○			○	授業の概要 化学基礎の授業では、物質は粒子であるという化学の基本的な考えから始まり、徐々に酸と塩基の中和、酸化と還元、電気分解などの物質の変化に関する内容を学びます。 実験、観察を通して自然現象の中に隠れた法則性に気づき、考えを深めることが大切です。	
		2編 物質の変化 1章 物質と化学変化	1 原子量・分子量と物質質量 ・相対質量 ・原子量 ・分子量 ・式量 ・物質質量 ・濃度				○		
	5	中間考査(5/18～5/21)					○		○
	6		2 化学変化の量的関係 ・化学反応式 ・イオン反応式 ・化学反応式と量的関係 ・化学の基礎法則		○		○		
		期末考査(6/28～7/2)					○		○
		2章 酸と塩基	1 酸と塩基 ・酸 ・塩基 ・酸と塩基の定義 ・強さ ・電離 2 水素イオン濃度とpH ・水の電離 ・pH		○		○		
	夏季	7	夏季休業日(7/21～8/24)						
二 学 期	8		・指示薬 ・身の回りの物質のpH 3 中和反応と塩の生成 ・中和反応の量的関係 ・中和滴定 ・滴定曲線	○			○	学習の到達目標 ・化学的な事象・現象についての観察、実験を行い、実験技能の向上を図るとともに自然に対する関心や探究心を高め、化学的に探究する能力と態度を身に付ける。 ・身の回りの事象・現象の背後に潜む、基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的な自然観を育成できる。 ・平衡の原理や物質の性質を学び、それらを用いて基本的な化学現象について探究し、日常生活や社会と関連づけて考察できる。	
	9	中間考査5年(9/28～10/1)					○		○
	10	中間考査4・6年(10/5～10/8)					○		○
	3章 酸化と還元	1 酸化と還元 ・酸化と還元の定義(酸素、水素、酸化数) ・酸化剤と還元剤 ・酸化還元反応		○		○			
	11	期末考査(11/29～12/3)					○		○
	12		・金属のイオン化傾向 ・イオン化列 ・金属の反応性 2 酸化還元反応の利用		○		○		
	冬季	12	冬季休業日(12/21～1/6)						
三 学 期	1		・さまざまな電池 ・一次電池と二次電池 ・電気分解 ・ファラデーの法則	○	○		○	評価の方法 学習の状況は、「関心・意欲・態度」、「思考・判断・表現」、「観察・実験の技能」、「知識・理解」の4つの観点で評価します。具体的には、おもに「出席」、「授業態度・取り組み方」、「定期考査」、「小テスト等」、「提出物(レポートやノート)」により評価します。また、学年の成績は、上記の観点から評価した各学期の成績の平均とし、5段階法でも評定します。	
	2	学年末考査4・5年(2/21～2/28)					○		○
	3	問題演習					○		○
								備考 内容は前期課程の理科よりも高度になります。 暗記事項や計算事項も増えてきます。週に2回しか授業がありませんから、復習を心がけ、一日一問の問題演習を継続することが大切です。	

シ ラ バ ス

愛媛県立宇和島南中等教育学校(後期課程)

教科	理科	科目	生物基礎	学年	5 年	類型	グローバル文科系	単位数	2	単位
----	----	----	------	----	-----	----	----------	-----	---	----

教科書名	改訂版 生物基礎	出版社名	数研出版
------	----------	------	------

学期	月	指導計画		評価の観点				授業の概要・学習の到達目標・評価の観点等
		単元	内容	関	思	技	知	
一 学 期	4	第1編 生物と遺伝子	1 生物の多様性と共通性	○			○	授 業 の 概 要 生物基礎の授業では、DNAやヒトを中心とした動物の生理、生物の多様性に注目した生態系など、ミクロレベルからマクロレベルまでの領域を学びます。また、人間の活動と環境との関連についても学ぶことができます。 また、観察、実験などを通して、生物学的に探究する能力と態度を身に付けるとともに、生物学の基本的な概念や原理・法則を考察し、科学的な見方や考え方を身に付けることができます。
		第1章 生物の特徴	2 エネルギーと代謝	○			◎	
		3 光合成と呼吸	○			○		
		探究活動1 光合成に関する探究 整理の問題	○	○		◎		
	5	中間考査(5/18～5/21)			○	○	○	
	6	第2章 遺伝子とそのはたらき	1 遺伝情報とDNA	○	○		○	
		2 遺伝情報の発現 3 遺伝情報の分配	○	◎		○		
7	期末考査(6/28～7/2)			○	○	◎		
夏 季	夏季休業日(7/21～8/24)							
	8	第2編 生物の体内環境の維持	1 体内環境としての体液	○	○	○	◎	
二 学 期	9	第3章 生物の体内環境	2 腎臓と肝臓による調節	○	○		◎	
		3 神経とホルモンによる調節	○	○	○	◎		
		中間考査5年(9/28～10/1)		○	○	○	◎	
	10	中間考査4・6年(10/5～10/8)			◎	○	◎	
	11	4 免疫	○	○		◎		
探究活動3 塩分濃度の変化が赤血球に与える影響 整理の問題		○	○	○	◎			
期末考査(11/29～12/3)				◎		◎		
12	第3編 生物の多様性と生態系	1 植生とその成り立ち	○	○		◎		
	第4章 植生の多様性と分布		○	○		◎		
冬 季	冬季休業日(12/21～1/6)							
	1	2 植生の遷移	○			◎		
3 気候とバイオーム		○			○			
探究活動4 身近な植生と環境とのかかわりの調査 整理の問題		○			◎			
三 学 期	2	第5章 生態系とその保全	1 生態系とその成り立ち	○			○	
		2 物質循環とエネルギーの流れ	○			◎		
	3	3 生態系のバランスと保全	◎	○		◎		
3	学年末考査4・5年(2/21～2/28)			◎	○	◎		
	探究活動5 オオクチバスの生態についての調査 整理の問題	○	◎		◎			

シ ラ バ ス

愛媛県立宇和島南中等教育学校(後期課程)

教科	理 科	科目	物理基礎 物理	学年	5 年	類型	グローバル理科系	単位数	2 2	単位
----	-----	----	------------	----	-----	----	----------	-----	--------	----

教科書名	改訂版 物理基礎	改訂版 物理	出版社名	数研出版
------	----------	--------	------	------

学期	月	指 導 計 画		評 価 の 観 点				授業の概要・学習の到達目標・評価の観点等
		単 元	内 容	関	思	技	知	
一 学 期	4	第1編 運動とエネルギー	1 速度 2 加速度		○	○		授業の概要 第1編は物理基礎、物理とも力学分野です。主に運動する物体について規則性やエネルギー、またそれらの法則を学びます。 第2編は熱・熱エネルギーに関する内容です。物理基礎で、熱に関する諸現象を学び、物理ではそのメカニズムを詳しく学習します。 第3編は波に関する内容です。波動現象の基本的な性質や特徴を学び、音や光の諸現象を学習します。 物理基礎の第4編は電気分野です。オームの法則や電気エネルギーについて学びます。 物理基礎の第5編は、身の回りで利用されているエネルギーや、社会で実用化されている技術に関して、物理的側面からその仕組みを学習します。 物理の第4章以降は、6年生で学習します。
		第1章 運動の表し方	3 落体の運動		○	○	◎	
		第2章 運動の法則	1 力とそのはたらき 2 力のつりあい 3 運動の法則			○	◎	
		第3章 仕事と力学的エネルギー	4 摩擦を受ける運動 5 液体や気体から受ける力			○	○	
	5	第3章 仕事と力学的エネルギー	1 仕事 2 運動エネルギー			○	◎	
		中間考査(5/18～5/21)	3 位置エネルギー 4 力学的エネルギーの保存			○	◎	
	6	第2編 熱	1 熱と熱量			○	○	
		第1章 熱とエネルギー	2 熱と物質の状態			○	○	
		第3編 波	3 熱と仕事 4 不可逆変化と熱機関			○	○	
		第1章 波の性質	1 波と媒質の運動		○		◎	
	7	第1章 波の性質	2 波の伝わり方		○		◎	
		期末考査(6/28～7/2)			○		◎	
		第2章 音	1 音の性質			○	○	
		第4編 電気	2 発音素の振動と共振・共鳴			○	◎	
二 学 期	8	第1章 物質と電気抵抗	1 電気の性質 2 電流と電気抵抗		○		◎	
		第2章 交流と電磁波	3 電気とエネルギー		○		◎	
		第5編 物理学と社会	1 交流 2 電磁波		○		○	
		第1章 エネルギーとその利用	1 エネルギーの移り変わり 2 エネルギー資源と発電		○		○	
	9	第1章 エネルギーとその利用	1 摩擦をコントロールする			○	◎	
		第1章 エネルギーとその利用	2 エネルギーを有効利用する 3 見えないものを見る			○	◎	
		中間考査5年(9/28～10/1)				○	◎	
		中間考査4・6年(10/5～10/8)				○	◎	
	10	第1編 力と運動	1 平面運動の速度・加速度			○	◎	
		第1章 平面内の運動	2 落体の運動			○	◎	
		第2章 剛体	1 剛体にはたらく力のつりあい			○	◎	
		第3章 運動量の保存	2 剛体にはたらく力の合力と重心			○	◎	
	11	第3章 運動量の保存	1 運動量と力積			○	◎	
		第3章 運動量の保存	2 運動量保存則			○	◎	
第3章 運動量の保存		3 反発係数			○	◎		
期末考査(11/29～12/3)					○	◎		
12	第4編 円運動と万有引力	1 等速円運動 2 慣性力			○	○		
	第4編 円運動と万有引力	3 単振動			○	◎		
	第4編 円運動と万有引力	4 万有引力			○	◎		
	冬季休業日(12/21～1/6)							
三 学 期	1	第2編 熱と気体	1 気体の法則		○	○		
		第1章 気体のエネルギーと状態変化	2 気体分子の運動		○	◎		
		第1章 気体のエネルギーと状態変化	3 気体の状態変化			○	○	
		第3編 波	1 正弦波			○	○	
	2	第1章 波の伝わり方	2 波の伝わり方		○		○	
		第2章 音の伝わり方	1 音の伝わり方			○	◎	
		第2章 音の伝わり方	2 音のドップラー効果			○	◎	
		学年末考査4・5年(2/21～2/28)				○	◎	
	3	第3章 光	1 光の性質 2 レンズ			○	◎	
		第3章 光	3 光の干渉と回折			○	◎	

シ ラ バ ス
令和3年度

愛媛県立宇和島南中等教育学校(後期課程)

教科	理科	科目	化学	学年	5 年	類型	グローバル理系	単位数	2	単位
----	----	----	----	----	-----	----	---------	-----	---	----

教科書名	改訂 化学	出版社名	東京書籍
------	-------	------	------

学期	月	指 導 計 画		評 価 の 観 点				授業の概要・学習の到達目標・評価の観点等
		単 元	内 容	関	思	技	知	
一 学 期	4	第2編 化学反応とエネルギー	1 反応熱と熱化学方程式		○		○	授 業 の 概 要 第1編は物質の状態と平衡に関する内容です。主に気体・液体・固体の性質や構造について学びます。 第2編は化学反応とエネルギーに関する内容です。化学反応によって生じる熱や光、電池や電気分解のしくみを学習します。 第3編は化学反応の速さと平衡に関する内容です。反応速度の理論や可逆反応における平衡移動およびその法則などを学習します。 第4編は無機分野です。さまざまな元素の単体やその化合物の性質を学び、周期表の規則性も学習します。 化学の第5編以降は、主に6年生で学習します。
		1章 化学反応と熱	2 ヘスの法則		○	○	○	
		2章 電池と電気分解	3 化学反応と光	○		○	◎	
		1 電池			○		○	
	5	中間考査(5/18～5/21)	2 電気分解			○	◎	
		第1編 物質の状態と平衡	1 物質の三態		○		○	
	6	1章 物質の状態	2 気体・液体間の状態変化		○		◎	
		2章 気体の性質	1 気体 2 気体の状態方程式		○		○	
		3章 溶液の性質	1 溶解		○		○	
	7	期末考査(6/28～7/2)	2 希薄溶液の性質		○		◎	
4章 固体の構造		3 コロイド		○		◎		
		1 結晶 2 金属結晶の構造		○	○	◎		
		3 イオン結晶の構造 4 そのほかの結晶と非晶質		○	○	◎		
夏季休業日(7/21～8/24)								
二 学 期	8	第3編 化学反応の速さと平衡	1 反応の速さ 2 反応の速さを決める条件		○		○	評 価 の 観 点 関 心 ・ 意 欲 ・ 態 度 自然の事物・現象に関心や探究心を持ち、意欲的にそれらを探知しようとするともに、科学的態度を身に付けている。 思 考 ・ 判 断 ・ 表 現 自然の事物・現象の中に問題を見だし、探究する過程を通して、事象を科学的に考察し、導き出した考えを的確に表現している。 観 察 ・ 実 験 の 技 能 観察・実験を行い、基本操作を習得するとともに、それらの過程や結果を的確に記録・整理し、自然の事物・現象を科学的に探究する技能を身に付けている。 知 識 ・ 理 解 自然の事物・事象について、基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身に付けている。
		1章 化学反応の速さ	3 反応のしくみ		○		◎	
	9	2章 化学平衡	1 可逆反応と化学平衡 2 平衡の移動		○		◎	
		3章 水溶液中の化学平衡	1 電離平衡		○		◎	
	10	中間考査5年(9/28～10/1)	2 塩の水への溶解 3 緩衝液		○	○	◎	
		中間考査4・6年(10/5～10/8)			○		◎	
		第4編 無機物質	4 塩の水への溶解 5 難溶性塩の溶解平衡		○	○	○	
			1 周期表		○	○	◎	
	11	1章 周期表と元素	1 水素と希ガス 2 ハロゲン		○		○	
		2章 非金属元素の単体と化合物	3 酸素・硫黄		○	○	○	
4 窒素・リン			○	○	○			
12	5 炭素・ケイ素		○	○	○			
	期末考査(11/29～12/3)		○		◎			
	3章 典型金属元素の単体と化合物	1 アルカリ金属		○	○	◎		
1	5章 無機物質と人間生活	2 2族元素 3 1, 2族以外の典型元素		○		◎		
		4章 遷移元素の単体と化合物	1 遷移元素		○	○	○	
冬季休業日(12/21～1/6)								
三 学 期	1	第5編 有機化合物	2 金属イオンの分離・確認			○	○	評 価 方 法 学習の状況は、「関心・意欲・態度」、「思考・判断・表現」、「観察・実験の技能」、「知識・理解」の4つの観点で評価します。具体的には、おもに「出席」、「授業態度・取り組み方」、「定期考査」、「小テスト等」、「提出物(レポートやノート)」により評価します。また、学年の成績は、上記の観点から評価した各学期の成績の平均とし、5段階法でも評定します。
			1 金属		○		○	
	2 セラミック		○		○			
	1 有機化合物の特徴		○		◎			
	2	1章 有機化合物の特徴と構造	2 有機化合物の構造式の決定		○	○	○	
学年末考査4・5年(2/21～2/28)				○	○	○		
3				○		◎		
				○		○		
				○		○	備 考 進捗はかなり速くなります。予習・復習を心がけることが大切です。	

シ ラ バ ス

愛媛県立宇和島南中等教育学校(後期課程)

教科	理科	科目	生物基礎 生物	学年	5 年	類型	グローバル理科系	単位数	2 2	単位
----	----	----	------------	----	-----	----	----------	-----	--------	----

教科書名	改訂版 生物基礎・改訂版 生物	出版社名	数研出版
------	-----------------	------	------

学期	月	指導計画		評価の観点				授業の概要・学習の到達目標・評価の観点等	
		単元	内容	関	思	技	知		
一 学 期	4	生物基礎 第1編 生物と遺伝子	1 生物の多様性と共通性	◎	○	○		授業の概要 生物基礎の授業では、生物の共通性について考え、遺伝子やタンパク質の合成、ヒトを中心とした動物の生理、生物の多様性に注目した生態系などについて大まかに広く学びます。 生物の授業では、生物基礎の内容をベースに、さらに広く深く学びます。5年次には、細胞、タンパク質、同化、異化、生物の発生について学びます。 座学だけでなく、観察、実験などを通して、生物学的に探究する能力と態度を身に付けるとともに、生物学の基本的な概念や原理・法則を考察し、科学的な見方や考え方を身に付けることができます。	
		第1章 生物の特徴	2 エネルギーと代謝 3 光合成と呼吸 探究活動1 光合成に関する探究 整理の問題	○		◎	◎		
		第2章 遺伝子とのはたらき	1 遺伝情報とDNA 2 遺伝情報の発現		○		○		
		中間考査(5/18～5/21)			○		○		
	5	6	第2編 生物の体内環境の維持	3 遺伝情報の分配 探究活動2 DNA模型の作製 整理の問題	○		◎		
				1 体内環境と体液	○	○	◎		
				期末考査(6/28～7/2)		○			○
7	第3章 生物の体内環境	2 腎臓と肝臓による調節 3 神経とホルモンによる調節 4 免疫 探究活動3 塩分濃度の変化が赤血球に与える影響		○		○			
		夏季休業日(7/21～8/24)							
二 学 期	8	第3編 生物の多様性と生態系	1 植生とその成り立ち	○		◎		学習の到達目標 ・日常生活や社会との関連を図りながら生物や生物現象への関心を高め、目的意識をもって観察、実験などを行い、生物学的に探究する能力と態度を養う。 ・生物学の基本的な概念や原理・法則を理解し、科学的な見方や考え方を養う。	
			第4章 植生の多様性と分布	2 植生の遷移	○		○		
			3 気候とバイオーム 探究活動4 身近な植生と環境とのかかわりの調査	○		○			
	9	第5章 生態系とその保全	1 生態系とその成り立ち 2 物質循環とエネルギーの流れ 3 生態系バランスと保全	○		○			
			中間考査5年(9/28～10/1)		○	◎	○		
	10	生物	1 生体を構成する物質 2 タンパク質の構造と性質 3 酵素のはたらき	○	○	○	◎		
			第1編 生命現象と物質 第1章 細胞と分子	4 細胞の構造 5 物質輸送とタンパク質 6 情報伝達・認識とタンパク質	○	○	○		◎
			第2章 代謝	1 代謝とエネルギー 2 呼吸と発酵 3 光合成 4 窒素同化	○	○	◎		
			第3章 遺伝情報の発現	1 DNAの構造と複製 2 遺伝情報の発現 3 遺伝情報の発現調節 4 バイオテクノロジー	○	○	◎		
			期末考査(11/29～12/3)		○	○	◎		
12	第2編 生殖と発生	1 遺伝子と染色体 2 減数分裂と遺伝情報の分配 3 遺伝子の多様な組合せ	○	○	◎				
		第4章 生殖と発生		○	○	◎			
冬季休業日(12/21～1/6)									
三 学 期	1	第3編 生物の環境応答	4 動物の配偶子形成と受精 5 初期発生の過程	○		◎		評価方法 学習の状況は、「関心・意欲・態度」、「思考・判断・表現」、「観察・実験の技能」、「知識・理解」の4つの観点で評価します。具体的には、おもに「出席」、「授業態度・取り組み方」、「定期考査」、「小テスト等」、「提出物(レポートやノート)」により評価します。また、学年の成績は、上記の観点から評価した各学期の成績の平均とし、5段階法でも評定します。	
			6 細胞の分化と形態形成	○	◎	○			
			7 植物の配偶子形成と発生	○		◎			
	2	第5章 動物の反応と行動	1 ニューロンとその興奮 2 刺激の受容 3 情報の統合 4 刺激への反応	○	○	○			
			5 動物の行動	○		◎			
	3	学年末考査4・5年(2/21～2/28)	1 植物の生活と環境応答	○		◎			
2 発芽の調節 3 成長の調節			○	○	○				
備考				◎	○	◎	進捗はかなり速くなります。復習を心がけ、一日一問の問題演習を継続することが大切です。		

シ ラ バ ス

愛媛県立宇和島南中等教育学校(後期課程)

教科	理科	科目	生物基礎	学年	6年	類型	グローバル文科系	単位数	2	単位
----	----	----	------	----	----	----	----------	-----	---	----

教科書名	改訂版 生物基礎	出版社名	数研出版
------	----------	------	------

学期	月	指導計画		評価の観点				授業の概要・学習の到達目標・評価の観点等
		単元	内容	関	思	技	知	
一学期	4	演習問題	問題演習	○			○	<p>授業の概要</p> <p>教科書内容の学習を一通り終わると、発展的な内容や探究活動に取り組み、生物や生物現象の特徴は、共通性が見られると同時に多様性があることを理解し、要因を個々のレベルで分析すると同時に、全体を総合的に捉える能力を養います。</p> <p>学習の到達目標</p> <p>・5年次に学習した内容を基に、自然界の事象を分析的、総合的に考察する能力と態度を育成するとともに、豊かな科学的素養を養い、入試レベルに対応できる力を身に付ける。</p>
		探究活動	観察・実験	○	○	○	○	
	5	中間考査(5/18～5/21)				○	○	
		演習問題	問題演習	○			○	
	6	探究活動	観察・実験	○	○	○	○	
		期末考査(6/28～7/2)				○	○	
	7	演習問題	問題演習	○			○	
探究活動		観察・実験	○	○	○	○		
夏季		夏季休業日(7/21～8/24)						
二学期	8	演習問題	問題演習	○			○	<p>評価の観点</p> <p>関心・意欲・態度</p> <p>自然の事物・現象に関心や探究心を持ち、意欲的にそれらを探究しようとするとともに、科学的態度を身に付けている。</p> <p>思考・判断・表現</p> <p>自然の事物・現象の中に問題を見だし、探究する過程を通して、事象を科学的に考察し、導き出した考えを的確に表現している。</p> <p>観察・実験の技能</p> <p>観察・実験を行い、基本操作を習得するとともに、それらの過程や結果を的確に記録、整理し、自然の事物・現象を科学的に探究する技能を身に付けている。</p> <p>知識・理解</p> <p>自然の事物・事象について、基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身に付けている。</p>
		探究活動	観察・実験	○	○	○	○	
	9	中間考査5年(9/28～10/1)				○	○	
		中間考査4・6年(10/5～10/8)				○	○	
	10	演習問題	問題演習	○			○	
		探究活動	観察・実験	○	○	○	○	
	11	期末考査(11/29～12/3)				○	○	
		演習問題	問題演習	○			○	
	12	演習問題	問題演習	○			○	
		探究活動	観察・実験	○	○	○	○	
冬季		冬季休業日(12/21～1/6)						
三学期	1	演習問題	問題演習	○			○	<p>評価方法</p> <p>学習の状況は、「関心・意欲・態度」、「思考・判断・表現」、「観察・実験の技能」、「知識・理解」の4つの観点で評価します。具体的には、おもに「出席」、「授業態度・取り組み方」、「定期考査」、「小テスト等」、「提出物(レポートやノート)」により評価します。また、学年の成績は、上記の観点から評価した各学期の成績の平均とし、5段階法でも評定します。</p> <p>備考</p>
		家庭学習期間	家庭学習	○			○	
	2	演習問題	問題演習	○			○	
		学年末考査4・5年(2/21～2/28)				○	○	
3								

令和3年度
シ ラ バ ス

愛媛県立宇和島南中等教育学校(後期課程)

教科	理科	科目	探究理科Ⅱ (地学分野)	学年	6年	類型	グローバル文科系	単位数	2	単位
----	----	----	-----------------	----	----	----	----------	-----	---	----

教科書名	地学学習帳	出版社名	愛媛県高等学校教育研究会理科部会地学部門
------	-------	------	----------------------

学期	月	指導計画		評価の観点				授業の概要・学習の到達目標・評価の観点等	
		単元	内容	関	思	技	知		
一学期	4	第2章 活動する地球	1 地球を測る	◎	○			授業の概要 一学期は、地球表層で起こる地震や火山などの現象について理解を深めます。 二学期は、地球の歴史、大気と海洋の相互作用、宇宙の成り立ちについて理解を深めます。また、問題演習によって基礎・基本事項の定着を図ります。 三学期は、問題演習を通して地学分野に関する理解を完成させていきます。	
			2 地球内部の構造		◎	○			
			3 プレートテクトニクス		○		◎		
			4 火山の分布	○		◎			
			5 マグマの発生	○		◎			
			6 火成岩の形成		○	◎			
	5	中間考査(5/18～5/21)			○		◎		
6		7 造岩鉱物		○	◎		学習の到達目標 ・自然の事物や現象に関心が持てるようになる。 ・地学分野の基礎・基本事項が身に付く。 ・地球や宇宙で起こる自然現象について、自分なりの表現で説明できるようになる。		
		8 地震が発生する仕組み		○	◎				
		9 日本周辺の地震の分布と種類	○	◎					
		10 活断層を探る	○	◎					
		期末考査(6/28～7/2)			○			◎	
		7	第3章 移り変わる地球	・問題演習		○			◎
夏季	8	夏季休業日(7/21～8/24)							
			第4章 大気と海洋	3 地殻変動と変成作用			◎	○	
				4 化石と地質時代	○	◎			
				1 大気の大循環		○	◎		
				2 地球の熱平衡		○	◎		
				3 大気と海洋の相互作用	○	◎			
9	中間考査5年(9/28～10/1)	4 自然災害	○	◎					
二学期	10	第1章 宇宙の姿	・問題演習		○		◎	評価の観点 関心・意欲・態度 自然の事物・現象に関心や探究心を持ち、意欲的にそれらを探知しようとするともに、科学的態度を身に付けている。	
			1 太陽系	○		◎			
			2 太陽の活動	○		◎			
			3 恒星の誕生と進化	○		◎			
			4 銀河と宇宙の広がり	○		◎			
			11	問題演習	・問題演習		○		
12	期末考査(11/29～12/3)			○		◎	観察・実験の技能 観察、実験を行い、基本操作を習得するとともに、それらの過程や結果を的確に記録、整理し、自然の事物・現象を科学的に探究する技能を身に付けている。		
	問題演習	・問題演習		○		◎			
				○		◎			
				○		◎			
				○		◎			
				○		◎			
冬季	1	問題演習	・問題演習		○		◎	知識・理解 自然の事物・現象について、基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身に付けている。	
			家庭学習		○		◎		
					○		◎		
					○		◎		
					○		◎		
					○		◎		
三学期	2	学年末考査4・5年(2/21～2/28)			○		◎	評価方法 学習の状況は、「関心・意欲・態度」、「思考・判断・表現」、「観察・実験の技能」、「知識・理解」の4つの観点で評価します。具体的には、おもに「出席」、「授業態度・取り組み方」、「定期考査」、「小テスト等」、「提出物(レポートやノート)」により評価します。また、学年の成績は、上記の観点から評価した各学期の成績の平均とし、5段階法でも評定します。	
					○		◎		
					○		◎		
3					○		◎	備考	
					○		◎		

シ ラ バ ス

令和3年度

愛媛県立宇和島南中等教育学校(後期課程)

教科	理科	科目	物理	学年	6年	類型	グローバル理科系	単位数	4	単位
----	----	----	----	----	----	----	----------	-----	---	----

教科書名	改訂版 物理	出版社名	数研出版
------	--------	------	------

学期	月	指導計画		評価の観点				授業の概要・学習の到達目標・評価の観点等	
		単元	内容	関	思	技	知		
一学期	4	4編 電気と磁気	1 静電気力 2 電場	○			◎	<p>授業の概要</p> <p>第4編は電磁気分野です。オームの法則や電気エネルギー、磁気に関する内容を学び、電流と磁気の関連性について学習を深めていきます。</p> <p>第5編は、原子に関する内容です。ミクロな世界における、物質の粒子性と波動性や、原子の構造、原子核の反応について学習します。</p> <p>学習の到達目標</p> <p>・物理的な事象・現象についての観察、実験を行い、実験技能の向上を図るとともに自然に対する関心や探究心を高め、物理的に探究する能力と態度を身に付ける。</p> <p>・身の回りの事象・現象の背後に潜む、基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的な自然観を育成できる。</p> <p>・物理学の基本法則を学び、それらを用いて基本的な物理現象について解析することができる。</p> <p>評価の観点</p> <p>関心・意欲・態度</p> <p>自然の事象・現象に関心や探究心を持ち、意欲的にそれらを探究しようとするとともに、科学的態度を身に付けている。</p> <p>思考・判断・表現</p> <p>自然の事象・現象の中に問題を見だし、探究する過程を通して、事象を科学的に考察し、導き出した考えを的確に表現している。</p> <p>観察・実験の技能</p> <p>観察・実験を行い、基本操作を習得するとともに、それらの過程や結果を的確に記録、整理し、自然の事象・現象を科学的に探究する技能を身に付けている。</p> <p>知識・理解</p> <p>自然の事象・事象について、基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身に付けている。</p> <p>評価方法</p> <p>学習の状況は、「関心・意欲・態度」、「思考・判断・表現」、「観察・実験の技能」、「知識・理解」の4つの観点で評価します。具体的には、おもに「出席」、「授業態度・取り組み方」、「定期考査」、「小テスト等」、「提出物(レポートやノート)」により評価します。また、学年の成績は、上記の観点から評価した各学期の成績の平均とし、5段階法でも評定します。</p> <p>備考</p>	
		1章 電場	3 電位 4 物質と電場		○				◎
		2章 電流	5 コンデンサー			○			◎
		3章 電流と磁場	1 オームの法則 2 直流回路 3 半導体		○				◎
	5	中間考査(5/18~5/21)	1 磁場 2 電流の作る磁場		○				◎
		4章 電磁誘導と電磁波	3 電流が磁場から受ける力 4 ローレンツ力			○			◎
	6	期末考査(6/28~7/2)	1 電磁誘導の法則		○				◎
			2 交流の発生		○				◎
			3 自己誘導と相互誘導		○				◎
			4 交流回路		○				◎
5 電磁波			○			◎			
7	5編 原子	1 電子		○			◎		
	1章 電子と光	2 光の粒子性 3 X線		○			◎		
二学期	8	2章 原子と原子核	4 粒子の波動性		○			◎	
			1 原子の構造とエネルギー単位		○			◎	
			2 原子核		○			◎	
			3 放射線とその性質			○		◎	
			4 核反応と核エネルギー		○			◎	
	9	5 素粒子		○			◎		
		中間考査5年(9/28~10/1)		○			◎		
	10	中間考査4・6年(10/5~10/8)		○			◎		
		問題演習	問題演習		○			◎	
		11	期末考査(11/29~12/3)		○			◎	
問題演習				問題演習		○		◎	
12	冬季休業日(12/21~1/6)		○			◎			
			○			◎			
			○			◎			
三学期	1	問題演習	問題演習		○		◎		
			家庭学習		○		◎		
	2	学年末考査4・5年(2/21~2/28)		○			◎		
				○			◎		
	3			○			◎		

シ ラ バ ス

愛媛県立宇和島南中等教育学校(後期課程)

教科	理科	科目	化学	学年	6 年	類型	グローバル理科系	単位数	3 単位
----	----	----	----	----	-----	----	----------	-----	------

教科書名	改訂 化学	出版社名	東京書籍
------	-------	------	------

学期	月	指 導 計 画		評 価 の 観 点				授業の概要・学習の到達目標・評価の観点等
		単 元	内 容	関	思	技	知	
一 学 期	4	第5編 有機化合物		○	○	○		授業の概要 化学では、前年度に引き続いた内容を学習します。 第5編「有機化合物」の分野では、有機化合物について、基本的な構造、官能基による性質の違いなどについて、実験・観察などを通して学びます。 第6編「高分子化合物」の分野では、日常生活と関連付けながら、高分子化合物の反応性や性質・特徴について学びます。
		1章 有機化合物の特徴と構造	1 有機化合物の特徴 2 有機化合物の構造式の決定 章末問題	○	◎	◎		
		2章 炭化水素	1 飽和炭化水素 2 不飽和炭化水素 章末問題	○	○	○		
	5	3章 酸素を含む有機化合物	1 アルコールとエーテル 2 アルデヒドとケトン	○	◎	◎		
		3章 炭酸化合物	3 カルボン酸とエステル		○	○		
		4章 脂質とセッケン 章末問題	4 油脂とセッケン 章末問題	○	◎	◎		
	6	中間考査(5/18～5/21)			○	○		
4章 芳香族化合物		1 芳香族炭化水素 2 酸素を含む芳香族化合物	○	○	○	○		
3章 窒素を含む芳香族化合物		3 窒素を含む芳香族化合物	○	○	○	○		
7	4章 芳香族化合物の分類 賞末問題	4 芳香族化合物の分類 賞末問題	○	◎	○	◎	学 習 の 到 達 目 標	
	期末考査(6/28～7/2)			○	○	◎	・化学的な事象・現象についての観察、実験を行い、実験技能の向上を図るとともに自然に対する関心や探究心を高め、化学的に探究する能力と態度を身に付ける。 ・身の回りの事象・現象の背後に潜む、基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的な自然観を育成できる。 ・平衡の原理や物質の性質を学び、それらを用いて基本的な化学現象について探究し、日常生活や社会と関連づけて考察できる。	
	5章 有機化合物と人間生活	1 食品 2 医薬品 3 染料	○	○	◎	○		
二 学 期	8	第6編 高分子化合物	1 高分子化合物	○	○	○		
		1章 高分子化合物						
		夏季休業日(7/21～8/24)						
	9	2章 天然高分子化合物	1 単糖類・二糖類	○	◎	◎		
		2章 天然高分子化合物	2 多糖類	◎	○	○		
		3章 アミノ酸	3 アミノ酸	○	○	○	○	
	10	4章 タンパク質	4 タンパク質	○	○	○	○	
中間考査5年(9/28～10/1)				○	○			
中間考査4・6年(10/5～10/8)				○	◎			
11	5章 合成高分子化合物	1 合成繊維	○	◎	◎			
	2章 プラスチック	2 プラスチック		○	○			
	3章 ゴム 章末問題	3 ゴム 章末問題	○	◎	◎			
12	4章 高分子化合物と人間生活	1 プラスチック利用の拡大と環境問題 記述問題	○	◎	○	◎	実 験 ・ 観 察 の 技 能	
	演習問題	問題演習	○	◎	○	◎	観察・実験を行い、基本操作を習得するとともに、それらの過程や結果を的確に記録、整理し、自然の事象・現象を科学的に探究する技能を身に付けている。	
	期末考査(11/29～12/3)			○	○	◎		
三 学 期	1	演習問題	問題演習	○	○	○		
		問題演習	問題演習	○	○	○	知 識 ・ 理 解	
		家庭学習	家庭学習	○	○	○	自然の事象・事象について、基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身に付けている。	
2	演習問題	問題演習	○	○	○			
	演習問題	問題演習	○	○	○	評 価 方 法		
	演習問題	問題演習	○	○	○	学習の状況は、「関心・意欲・態度」、「思考・判断・表現」、「観察・実験の技能」、「知識・理解」の4つの観点で評価します。具体的には、おもに「出席」、「授業態度・取り組み方」、「定期考査」、「小テスト等」、「提出物(レポートやノート)」により評価します。また、学年の成績は、上記の観点から評価した各学期の成績の平均とし、5段階法でも評定します。		
3	学年末考査4・5年(2/21～2/28)			○	○		備 考	
	学年末考査4・5年(2/21～2/28)			○	○		進度はかなり速くなります。覚えることや計算を必要とする内容も増えてきます。復習を心がけ、一日一問の問題演習を継続することが大切です。	

シ ラ バ ス
令和3年度

愛媛県立宇和島南中等教育学校(後期課程)

教科	理科	科目	生物	学年	6 年	類型	グローバル理科系	単位数	4	単位
----	----	----	----	----	-----	----	----------	-----	---	----

教科書名	改訂版 生物	出版社名	数研出版
------	--------	------	------

学期	月	指導計画		評価の観点				授業の概要・学習の到達目標・評価の観点等
		単 元	内 容	関	思	技	知	
一 学 期	4	第4編 生物の環境応答	1 刺激の受容から反応への情報の流れ	○	○	◎		<p style="text-align: center;">授 業 の 概 要</p> <p>前年度に引き続き、生物基礎の内容を基に生物の内容を学習します。</p> <p>第3編では生物の初期発生の過程と、そこで見られる細胞間の相互作用、その過程で発生する遺伝子とその発現を調節している物質について学習します。</p> <p>第4編では動物の神経系における情報伝達の仕組みや動物の行動、植物の環境に対する応答、植物の成長過程で働く物質について学びます。</p> <p>第5編では生態系の中で、多様な生物が共存している様子や仕組み、生物多様性について学びます。</p> <p>第6編では、生物の進化や多様な生物の分類のしかたについて学びます。</p> <p style="text-align: center;">学 習 の 到 達 目 標</p> <p>・日常生活や社会との関連を固りながら生物や生物現象への関心を高め、目的意識をもって観察、実験などを行い、生物学的に探究する能力と態度を養う。</p> <p>・生物学の基本的な概念や原理・法則を理解し、科学的な見方や考え方を養う。</p> <p>・観察や実験、探究活動を行い、得られた結果について自分で考察することで分析する力や思考する力を養う。</p>
		1章 動物の刺激の受容と反応	2 ニューロンの性質と興奮のしくみ 3 刺激の受容のしくみ 4 中枢神経での情報処理	○	○	◎		
	5	3章 植物の環境応答	1 環境に応じた植物の一生と植物ホルモン 2 環境要因による発芽の調節	○	○	◎		
		中間考査(5/18～5/21)			◎	○	◎	
			2 環境要因による発芽の調節 3 栄養成長の調節	○	○	◎		
	6		4 気孔の開閉の調節 5 花芽形成の調節	○	○	◎		
			6 老化と落葉 7 ストレスに対する応答	○	○	◎		
		期末考査(6/28～7/2)			◎	○	◎	
7	第5編 生態系と環境	1 個体群と環境 2 個体群の構造と成長 3 個体群の相互作用	○	○	◎			
	1章 個体群と生物群集	4 種間の相互作用 5 生物群集の成り立ちと多種の共存	○	○	○			
夏季		夏季休業日(7/21～8/24)						
二 学 期	8	2章 生態系の物質生産とエネルギーの循環	1 食物網と物質生産	○	○	○		
			2 生態系の構造とエネルギーの流れ	○	○	○		
	9	3章 生態系と生物多様性	1 生物多様性とその意味	○	○	○		
			2 生物多様性を減少させる要因	○	○	○		
		第6編 生物の進化と系統	1 生命の起源	○	○	○		
		中間考査5年(9/28～10/1)			◎	○	◎	
		中間考査4・6年(10/5～10/8)			◎	○	◎	
	10	1章 生命の起源と生物の変遷	2 生物の変遷 3 人類の変遷	○	○	◎		
		2章 進化のしくみ	1 進化とは 2 生物の個体間の変異とその起源	○	○	◎		
			3 遺伝子頻度とその変化のしくみ 4 種分化 5 共進化	○	○	◎		
	11	3章 生物の系統	1 生物の系統	○	○	◎		
			2 生物の世界の3ドメイン 3 生物の系統のまとめ	○	○	◎		
		期末考査(11/29～12/3)		◎	○	◎		
12	問題演習	問題演習	○	○	○			
			○	○	○			
冬季		冬季休業日(12/21～1/6)						
三 学 期	1	問題演習		○	○	○		
				○	○	○		
	家庭学習		○	○	○			
			○	○	○			
			○	○	○			
2			○	○	○			
	学年末考査4・5年(2/21～2/28)		○	○	○			
3			○	○	○			
			○	○	○			